

海外事務所だより

シドニー事務所

東京都台東区とマンリー市の 姉妹都市提携30周年記念イベント

(財)自治体国際化協会シドニー事務所所長補佐 田頭 真二(総務省派遣)

はじめに

日本の地方公共団体とオーストラリアとの間には、都県と州レベルのものを含めて109か所の姉妹都市提携があり、ニュージーランドとの間には、41か所の姉妹都市があります(2012年1月時点)。毎年、約10か所の姉妹都市周年事業がありますが、今回は、2012年7月に開催された東京都台東区とオーストラリア ニュー・サウス・ウェールズ州(以下、「NSW州」)マンリー市の姉妹都市提携30周年記念イベントおよびそれに関連した訪日観光イベントを中心に、姉妹都市交流の事例の一部について紹介をしたいと思います。

東京都台東区とマンリー市の 姉妹都市のはじまり

台東区とマンリー市の姉妹都市交流のきっかけは、1982年4月までさかのぼります。日豪民際シンポジウムにおいて、当時の台東区長とマンリー市長が同席し、日豪民際シンポジウム終了後、台東区長の招きに応じて、マンリー市長らが台東区を訪問し、同年8月に台東区長、台東区議会議長他4名がマンリー市を訪問し、マンリー市長と台東区長が姉妹都市提携に調印したことによります。また、参考ですが、マンリー市は、神奈川県小田原市とも友好都市関係にあり、毎年、青少年交流を行うなど、とても親日的な市です。

日本の地方公共団体とオーストラリア・ニュージーランドの姉妹都市が提携されたきっかけはさまざまあります。シドニー事務所のホームページから、それぞれの姉妹都市提携を締結したきっかけを見ることができますので、興味がある方は、ぜひ、アクセスしてみてください。

東京都台東区とマンリー市の これまでの交流状況と 今回の姉妹都市提携30周年 イベントの目玉

1982年に姉妹都市提携を締結して以来、台東区とマンリー市は、さまざまな交流をしてきました。

例えば、過去においては、中学生教育使節団の派遣、マンリー市図書館にある日本コーナーへの図書等の寄贈、小学生の絵画の交換やマンリー・ジャズフェスティバルへの参加などをしてきました。直近では、マンリー市から2名の姉妹都市委員が台東区を訪問し、台東区長への表敬訪問に加え、台東区内にある中学校を訪問し、授業や給食を体験するとともに、江戸^{すだれ}簾等の伝統工芸体験などを行い、本年5月には、姉妹都市提携30周年を記念して、マンリー市副市長を団長とする訪問団が台東区を訪問し、日本文化などを体験したようです。

一方、オーストラリア国内における台東区とマンリー市の30周年記念イベントでは、台東区は、

在シドニー日本国総領事館、国際交流基金シドニー日本文化センター、日本政府観光局シドニー事務所（以下、「JNTO」）、国土交通省観光庁およびクレアシドニー事務所と協力し、日本から、歌川（安藤）広重による浮世絵木版画の連作『東海道五十三次』をシドニーに輸送し、国際交流基金シドニー日本文化センターで展示しました。



展示の様子：The Complete series of Hiroshige's Fifty-three Stations of Tokaido

東海道中53の宿場に、出発地（東京・日本橋）と到着地（京都・三条大橋）を足した全55点が展示されており、特に有名な数枚について、大正時代に撮影された写真および現代に撮影された写真を比べながら鑑賞できるように工夫されており、このような比較によって、江戸時代の日本、大正時代の日本、そして現代日本と、その地域がどのような発展をしてきたかがわかるようになっていきます。オーストラリアの方にとっても、浮世絵という日本文化が関心の高い分野であることに加え、このような比較によって、その地域の発展状況がわかりやすいようでした。



浮世絵・大正時代・現代の時代比較

クレアシドニー事務所でも、西オーストラリア州およびキャンベラで開催されたオーストラリア地方自治体幹部総会等において、オーストラリア国内の地方自治体等の関係者に、この浮世絵展についての周知・広報活動を行いました。江戸時代の日本の風情が描かれているということや浮世絵という日本の伝統文化ということから、われわれの周知・広報活動に関心を持って聞いてくれました。また、あわせて、クレアシドニー事務所がオーストラリアの地方自治体へメール配信しているクレアシドニー ニュースレターでも、この浮世絵展についての記事を掲載し、幅広く周知・広報活動を行いました。

マンリー市長主催の夕食会および浮世絵展オープングレセプション

マンリー市長主催の夕食会では、マンリー市長をはじめとする姉妹都市委員の方々も集い、台東区長をはじめとした台東区訪問団とは、旧友と久しぶりに再会したような和やかな雰囲気で行われました。マンリー市長と台東区長による30周年記念を祝うケーキカットなども行われ、最後に、即興で台東区の公式音頭である「たいとう音頭」が披露され、会場にいたマンリー市長をはじめとした参加者は、見よう見まねで踊り、会場の雰囲気は、まるで、日本の夏祭りの会場のように大いに盛り上がりました。



台東区長とマンリー市長によるケーキカット

翌日に開催された国際交流基金シドニー文化センターにおける浮世絵展オープングレセプション

ンでは、約200人が出席し盛大に行われました。クレアシドニー事務所も、シドニー近郊の市長に招待状を発送するよう関係者に手配させていただきました。参加者は、台東区から送られてきた浮世絵の素晴らしさを、一枚一枚じっくりと鑑賞していました。



浮世絵展オープニングレセプションの様子

JNTOによる訪日観光PR および今後の戦略

浮世絵展オープニングレセプションの翌日、一般公開開始イベントにあわせて、台東区長および区議会議長による台東区シティーセールスが行われ、また、東海道五十三次の地域にあわせたJNTOによる訪日観光プレゼンテーションが行われました。JNTOのプレゼンテーションでは、東日本大震災後、オーストラリアのギラード首相が、各国首脳の中で最初に被災地に入り、各種支援を行ってくれたことに対する感謝やオーストラリアからの訪日観光客が戻ってきており、引き続き、日本に訪問していただきたいという話がありました。JNTOのデータによれば、2011年のオーストラリアからの訪日旅行者数は、16万3,000人で、2010年の実績との比較では28%の減少となっており、この16万3,000人の実績は、2010年の実績に比べれば良くはないものの、東日本大震災直後に予想していた数字よりも多くの豪州旅客に訪日してもらったという印象とのことでした。また、2012年5月のオーストラリアからの訪日推計値をみると、2011年5月の7,400人に対し13,200人と約80%伸びており、2010年5月の14,600人には届かな

かったものの、ほぼ2010年レベルに戻っていると思われるとのことでした。

また、最後に、2013年に姉妹都市提携の周年を迎えるところが19か所あり、その中には、日本とオーストラリアとの最初の姉妹都市提携である奈良県大和高田市とNSW州リズモア市が、50周年の記念すべき年にあたることから、日本とオーストラリアの姉妹都市提携50周年記念をベースとした相互の観光交流を深める特別な年にしたいと考えており、在シドニー日本国総領事館、国際交流基金シドニー日本文化センター、クレアシドニー事務所、日本貿易振興機構などと連携して、「オール・ジャパンでの訪日プロモーション」を行いたいとの方針が示されました。

今後の姉妹都市について

前段のJNTOのプレゼンテーションにもありましたが、2013年は、日本とオーストラリアの最初の姉妹都市提携である奈良県大和高田市とNSW州リズモア市の姉妹都市提携50周年です。この両市の姉妹都市提携についての経緯は、ここでは割愛しますが、先人たちが築いてきた、この半世紀に渡る日本とオーストラリアの姉妹都市交流を、クレアシドニー事務所としても、姉妹都市に関わるすべての方と協力し、引き続き、サポートをしていきたいと思えます。